

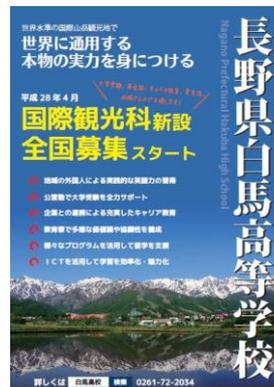
地元高校存続につながった「国際観光科」新設と生徒の全国募集 (長野県 白馬村)

○事例概要

- ・生徒数が減少していた村内唯一の高校である「県立白馬高等学校」の存続および魅力向上のため、「国際観光科」を新設するとともに、白馬村が「公営塾」および「教育寮」を開設・運営することとし、塾および寮の整備費用や人件費等にふるさと納税を活用。
- ・平成27年6月よりふるさと納税の呼びかけと併せて生徒の全国募集を実施（生徒募集のチラシの裏面に、ふるさと納税で応援できることを生徒からのメッセージと共に掲載）
- ・村営の公営塾「しろま学舎」は平成27年9月に運営を開始し、平成28年4月に「国際観光科」スタート。

(学校の特徴)

- ・公営塾で大学受験を全力サポート
- ・教育寮で多様な価値観や協調性を養成
- ・地域の外国人による実践的な英語力の習得
- ・様々なプログラムを活用して留学を支援



○寄付実績

平成27年度	822件	26,782千円
平成28年度	1,683件	44,621千円

○事業効果等

- ・平成26年度には全校生徒数150名未満であったが、地域内外から英語や観光を学びたいという多くの生徒が入学し、現在は200名超に増加。
- ・都市部と比べ進学塾や家庭教師が少ない環境でも、大学進学を目指した学習が行えるよう平日の放課後と土曜日に公営塾を運営。生徒の習熟度に応じた個別指導による大学受験対策に加え、資格取得やプロジェクト学習も実施。
- ・地域おこし協力隊や地域の外国人が公営塾・教育寮の講師・スタッフとして活躍。
- ・ブリティッシュスクールと連携協定を締結し、定期的に交流事業を実施。



○事業の評価

- ・地域の存続に高校の存在は極めて重要。地域の魅力ある活動支援というふるさと納税の趣旨によく合致している。
- ・ふるさと納税を教育に活かす好例と言える。生徒数の増加という目に見える効果も上がっている。
- ・地域内外に愛される学校づくりで未来志向。寄付者が地域の人材づくりに参加できる仕組みである。